

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム えがおの花大釜（すみれ）

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392100103		
法人名	株式会社 アルテライフ		
事業所名	グループホーム えがおの花大釜（すみれ）		
所在地	〒020-0763 岩手県滝沢市大釜大畑72-6		
自己評価作成日	令和2年11月21日	評価結果市町村受理日	令和3年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分の家族を入居させたいと思えるような施設を目標に、入居者様やご家族様とより良い関係を築けるよう心掛けています。職員が全て介助するのではなく、共同生活の中でその人の役割が持てるよう、色々な事を職員と行ってみたいと思います。各ユニットごとに誕生日会を開いたり、入居者様と一緒にケーキを作ったり、今年度はコロナウイルス感染予防の為中止になりましたが、お花見や、リンゴ狩りなど入居者様と一緒に楽しみながらイベントなども行っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームえがおの花大釜」は盛岡市に隣接した閑静な新興住宅地に位置し、開設から概ね7年を経過した施設である。事業所内は清潔で明るく、エアコンなどで温度管理され、快適な環境となっている。管理者を中心に、職員は基本理念である『縁〜今までの縁も、これからの縁も、大切に作る暮らし〜』を実践するために、家族、主治医、訪問看護ステーション等と連携し、本人本位の支援に努めている。利用者は、敷地内の菜園で野菜に触れることで季節の移り変わりを直に感じる事が出来ている。本年度はコロナ禍のため、季節毎のドライブ等の行事を控えたり、うがい、手洗い、手指消毒、マスク着用を強化し、利用者の安全に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年12月9日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に付く場所に掲示し意識付けを行っている	理念は事業所設立時に、地域に密着した福祉サービスを担う使命を果たしていこうと作成した。事務室等、常に目につく場所に掲示するとともに、年1回開催する全体会議で確認し、理念を意識した実践を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているが、今年度はコロナウイルスの関係で行事などには参加できなかった	地域の一員として「大釜南自治会」に加入し、回覧板で行事等の情報を得ながら可能な限り参加している。しかし、今年はコロナ禍のため積極的な交流が出来ない状況にある。	コロナ禍のため、小学生との交流等が出来ない状況にありますが、これまでのお付き合いが途切れないよう、手紙の交換などの工夫をされることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェなどは入居者を連れて行き、他のグループホームの方々と開催していたがコロナウイルスが拡大してきてからは開催を中止したりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染拡大の為、書類のみになっている	運営推進会議は地域の自治会長、民生児童委員、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、居宅介護支援センターの各職員、駐在所員、家族、職員で構成されている。年6回行事に併せて開催し、運営状況等について意見を交わしている。今年度はコロナ禍のため、第3回以降は、書面での報告に留まっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当課・地域包括支援センターと連携を取りながら協力して頂いている	地域包括支援センターの職員が事業所の運営推進会議のメンバーとして参加していることもあり、市担当課には運営状況や課題を把握していただいている。「認知症まちかど相談室」や「認知症カフェ」事業を市から受託する等、行政との連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	眠りSCANなどの見守り機器を使いながら夜間柵などをしないようにしている。施錠に関しては、来客の方が検温をせずに入らないようユニットと玄関をつなぐドアは掛けている。特定の入居者様は窓から出ようとする方がおり、ご家族様了解のもと窓を開けないよう鍵を追加している。	「身体拘束適正化指針」を作成し、委員会を開催している。委員を中心に、身体拘束をしない支援について毎月開催するユニット会議で、スピーチロックを含めた身体拘束について話し合っている。職員は指定基準に示される身体拘束の具体的な行為を把握し、業務に当たっている。利用者の安全を重視し、家族の了解の下、窓に施錠することもある。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	肉体的には勿論だが、入居者に対しスピーチロックなどを行わないよう職員にも共有してもらっている			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	先々必要性があると判断した場合は家族に相談したり制度の説明をしたり、活用に向けて検討していただいている			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にパンフレットや資料にて十分説明をし、了承を得た上で契約を結んでいる			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活の中で聞かれた要望や意見などは職員間で共有しケアの向上に努めている	家族が面会や利用者の通院付き添いで訪れた際に、主に居室担当者が意見や要望を聴き取ることにしている。家族からはケアに関する要望が多くあり、職員間で共有し、話せない利用者からは言動から汲み取るようにして、支援に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議のほか、ふだんの業務の中で意見や提案があれば検討し、利用者や職員にとって良いものであれば取り入れるようにしている。	定期的に開催する会議の中で職員の意見や提案、希望を聞く機会を設けている。日頃から所長に業務上の相談や希望等、話し合いが容易に出来る体制にある。浴槽用の車イスの購入、大型のバスマットへの交換、テレビ体操用DVDの更新など、職員の提案を可能な限り具体化している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップの為に研修受講や、施設からの研修案内などをし、受講の際は業務上の配慮を行っている			

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年はコロナウイルス感染予防の為積極的に研修等の参加はしませんでした。受講希望の研修など中止などもあり受講できませんでした		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上記の通り今年は感染予防の為行っていません		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	中々お話をされない方などもらっしやるが、入浴時などゆっくりとお話が聞ける際などに聞くよう心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	通院時や物品の補充に来た際などお話をしたり、手紙などを出している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応は見逃しが多いので、他の職員に相談しながら対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることを一緒に行いながら会話をし、信頼されるような関係を気付けるよう心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙や電話などをしながら状態報告をしている		

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの関係で、外出や面会制限の機会が減っているが、窓越しの面会で電話を使っての会話などで対応している	家族や知人、ボランティアなどの来訪者が大幅に少なくなっている。野菜などの差し入れの受け取りは玄関、利用者との対面は窓越しと、心苦しい思いをしている。訪問理容は間隔を延ばして継続して行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく孤立しないように気を付けているが、個人の性格などを配慮しながら声掛けをしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	中々連絡など取れていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時など本人の気分が落ち着いている時に伺ったりしながら、できる限り本人の意に沿えるよう心掛けている	入居時に利用者及び家族から事業所での生活についての意向を把握している。入居後は居室担当者を中心に、日常の会話や行動、表情から想いを汲み取り、24時間シートに記し、職員間で共有している。特に、利用者のやりたいことに一緒に応えていくよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、フェイスシートなどの情報を職員間で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録の確認確認などで、一人ひとりの心身状態把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議などで家族様の要望など計画に反映させているが、認知症の思い方などは本人の意向が上手くつかめないでいる	介護計画は、ユニット会議で日々のケア記録などで生活の変化を整理し利用者個々の課題や支援方法について話し合い、計画作成担当者と居室担当職員で作成している。基本的に6ヵ月毎に見直しを行なっているが、本人や家族の状況に変化が生じた場合は、現状に即した見直しを柔軟に行っている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録や送りなどで情報を共有し、ユニット会議などで計画の見直しについてなどに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応したサービスが出来ている時もあるが、多機能化はなかなか出来ていないと思う		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの関係で、地域資源の活用は出来なかった		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の個々のかかりつけ医に手紙などで錠提供をし、適切な医療を受けれるよう配慮しています	利用者の受診は以前からのかかりつけ医とし、通院は家族の付き添いを原則としている。家族が対応出来ない場合には職員が代行している。医療機関にはバイタル等、申し送り用紙で利用者の情報を提供し、受診結果は全職員、家族で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護さんに状態報告を行い、相談、アドバイスを受けている。緊急時や夜間なども対応してもらえる体制を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の迅速な情報提供や、入院中の経過報告、退院時の状態把握など円滑に行えるよう努力している		

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当者会議などで状況を説明し職員間でも共有をしている	入居時に利用者が重度化した場合の対応について説明し、同意を得ている。看取りは過去に経験し、現在も1名の利用者が看取りを希望している。かかりつけ医や訪問看護ステーション、家族、職員と連携し、希望に沿えるような支援を心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、もしコロナウイルス感染者が出た際はどうなるか不安		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練なども行っているが、いざ実践となった際は不安なところもある	事業所の立地条件から想定される災害は、火災、地震の他、ハザードマップに示される岩手山の降灰が考えられ、消防署、近隣住民の協力を得て避難訓練を行っている。今後は夜間想定訓練の実施も視野にある。水、食料品、ガスコンロ等を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの立場に立ち考えてはいるが、まだまだ不十分な点があると思う	「その人らしさ」を理解した支援を実践するため、利用者との日常的な会話の中で、否定的な言葉や自尊心を傷つけない対応に心がけている。トイレ使用時や入浴時における利用者のプライバシーの確保も含めて会議等で話し合い、職員間で共通する意識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	本人の自己決定につなげられるような支援に努めてはいるが、認知症の進み具合により難しくなっている人もいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先してしまうこともあるが、どうしてもゆっくりとしたペースでなければできない方もいらっしゃるため、そのペースに合わせケアを行うようにはしている		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べない方は確認しながら洋服の準備をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	この誕生日には食べたいメニューを伺い取り入れたりしている。食前食後のテーブル拭きや、食器拭きのお手伝いなどをしていただいている	自家菜園で育てた野菜や利用者家族からのおすそわけ野菜を利用して食卓に出すと、話題が広がり食事が楽しくなることがしばしばある。利用者は食後の下膳など、出来る範囲で関わり、生きがい・自信に繋げている。月1回のリクエストメニューの日は、利用者の楽しみになっている。以前は外食を楽しんでいたが、現在はコロナ禍のため、出前で対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排泄の状況により水分補給の量を増やしたり、体調や持病の状態を加味しながら食事量を調節したりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや見守りを行いながら行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご飯前後や寝る前など声掛けをしてトイレ介助を行っているが失禁なども多く自立に向けては難しいと思う	利用者個々の排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めている。可能な限りトイレで排泄できるよう、表情や動作を観察して自尊心を損ねないように声掛けし、誘導している。トイレは車イス使用者にも十分なスペースで整備され、使いやすい構造となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い水分を多く摂取したり起床時の水分補給やヤクルトなどの摂取を心掛けている。難しい方は医師に相談し服薬にて調整している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴しているが、通院などの際は前日に入浴して頂くよう調節している。拒否がある際なども日程調節をし別の日に入浴していただいている	入浴は、事前にバイタルチェックを行い、週2回を目途に職員と1対1で支援している。利用者は昔の思い出話をしたり、童謡などを歌ってゆったりと楽しんでいる。体調が不安な場合は、シャワー浴や清拭、足浴で対応している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なかなか眠れず主治医から眠剤の処方がある方もいらっしゃるが、それ以外の方は見守りや声掛けにて休んでもらうようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ここの服薬内容をスタッフ間で情報共有をしたり、状態変化があった際は訪問看護師や主治医に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナウイルスの関係外出が難しくなり外出は出来ていないが、室内でのレクなどを行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの関係で外出支援は行っていません	地域で例年開催していた運動会やお祭りのほか、花見や紅葉狩り等のドライブを楽しんでいたが、コロナ禍のため今年中止している。ウッドデッキでの外気浴で良しとせず、職員間で話し合い施設内散歩やDVDを利用した体操を行い、体力の現状維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できない方がほとんどなので施設管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの電話を取り次ぐことはある。正月などにはご家族様に出す年賀状をレクで作るようにしている		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム えがおの花大釜 (すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるようにリビングに装飾などを工夫したり、季節の花のぬり絵をしていただいたりしています	施設内は明るく、清潔感が漂っている。広々とした居間兼食堂にはテーブルと椅子が置かれ、食事を終えた利用者はソファでテレビを鑑賞したり、畳敷きの小上がりで本を読むなど、自由に寛いでいる。エアコンや加湿器を設置して快適な温度環境に配慮している。職員と一緒に作成したクリスマスツリーや作品が展示され、季節感を醸し出している。外出が思うようにならず、ストレス解消に職員がゲームや体操に工夫を凝らしており、明るい笑い声が聞こえている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファでテレビを観たり、会話を楽しんで頂いている。気の合った方々で輪投げやパズルなどを楽しむ方もいらっしゃいます		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族様の写真を貼ったり、家使い慣れたものを自宅などから持ってきていただくようにしている	居室毎にベッド、クローゼット、マットレスを備えている。基本的に事業所の方針として、使い慣れたものや個々に必要な備品、小物の持ち込みを自由とし、家族の写真や衣装ケース、絵画など好みものを置き、居心地良く過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室を分かりやすくするために名前と、入り口のメモリアルボックスに本人の思い出の物などを入れたりもしている		